

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月8日

上場会社名 株式会社 ロブテックス

上場取引所 大

コード番号 5969 URL <http://www.lobtex.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 地引 俊為

問合せ先責任者 (役職名) 取締役上席執行役員 管理本部長 (氏名) 豊島 尚規

TEL 072-980-1110

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	3,288	△23.0	148	—	82	—	34	—
21年3月期第3四半期	4,272	—	△72	—	△131	—	△51	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	3.66	—
21年3月期第3四半期	△5.38	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	%	円 銭	円 銭	
22年3月期第3四半期	6,886	—	1,722	—	24.3	177.91	177.91	
21年3月期	7,125	—	1,682	—	23.0	174.26	174.26	

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 1,675百万円 21年3月期 1,641百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	—	—	0.00	0.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

当社は定款において期末日を基準日と定めておりますが、現時点では当該基準日における配当予想額は未定であります。(「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」の欄をご覧ください。)

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,290	△18.9	180	—	90	—	40	—	4.25

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4.その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第3四半期	10,000,000株	21年3月期	10,000,000株
② 期末自己株式数	22年3月期第3四半期	583,448株	21年3月期	580,439株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第3四半期	9,417,429株	21年3月期第3四半期	9,477,117株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1.上記の業績予想は、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき判断したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、4ページ「定性的情報・財務諸表等 3.連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

2.平成22年3月期の期末配当予想については、今後の業績が不透明であるため、現時点では未定としております。年度業績等を勘案した上、配当予想額の開示が可能になった時点で速やかに開示を行うものいたします。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間のわが国経済はアジア向けを中心とした輸出・生産の回復や経済対策効果により一部に景気の持ち直しが見られましたものの、雇用不安による個人消費の低迷や設備投資の抑制など依然として厳しい状況で推移しました。

このような状況の下、当社グループは2009年度の経営スローガンとして「グループ全員一丸となり、飛躍に向けての足場を固め、新しいロブテックスを創る」を掲げ、グループ全員が同じ思いを持ち、何を成すべきかを考え、企業体質の更なる改善による基礎固めを行い、創業120年の歴史を超え、「新生ロブテックス」へと変革する初年度として活動してまいりました。営業部門におきましては、マーケティング機能を充実させ、商品戦略の方向性を明確にいたしますと共に、特約店制度におけるポイント制の実施やエンドユーザーへの営業活動の深耕による売上確保並びに営業サポート部門の設置による営業活動の効率化を図ってまいりました。生産・開発部門におきましては、多能工化・標準化・単純化によるスリムな生産体制での利益確保や高付加価値商品への取り組みによる生産技術力の強化を目指しますと共に、提案型商品及び次世代商品の開発を強化し、売上の伸長を図ってまいりました。その結果、売上高は前年同期比23.0%減の32億8千8百万円（前年同期42億7千2百万円）となりましたが、利益面では、営業利益で1億4千8百万円（前年同期は7千2百万円の営業損失）、経常利益で8千2百万円（同1億3千1百万円の経常損失）、四半期純利益で3千4百万円（同5千1百万円の純損失）と利益を確保することができました。

事業の種類別セグメント業績は次のとおりです。

<金属製品事業>

売上につきましては、国内・海外共に拡販に注力いたしましたが、景気後退の影響を受け、前年同期に比し各品種において減少し、売上高は前年同期比24.4%減の30億7千4百万円（前年同期40億6千3百万円）となりました。利益面では、売上は大幅に減少いたしましたものの、人件費のみならず徹底した経費削減を行いました結果、利益率が改善し、3千1百万円の営業利益（同1億8千5百万円の営業損失）となりました。

<レジャー事業（ゴルフ練習場）>

入場者増加施策が奏効し、売上高は前年同期比2.8%増の2億1千4百万円（前年同期2億8百万円）となり、営業利益は同4.0%増の1億1千7百万円（同1億1千2百万円）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は前期末に比べ2億3千8百万円減の68億8千6百万円となりました。

<資産>

流動資産はたな卸資産が減少し、前期末比1億6千1百万円減の34億7千4百万円となりました。固定資産では定期預金の増加はありましたが、有形固定資産の減価償却による減少があり、同7千4百万円減の34億7百万円となりました。

<負債>

流動負債では1年内社債の増加はありましたが、短期借入金の減少により、前期末比4億3千3百万円減の31億6千6百万円となりました。固定負債では社債の1年内社債への振替がありましたものの、長期借入金の増加などにより、同1億5千4百万円増の19億9千6百万円となりました。

<純資産>

四半期純利益の計上による利益剰余金の増加を主因に前期末に比し4千万円増加し、17億2千2百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、前期末に比べ資金が1億7百万円増加し、当四半期末には11億1千5百万円となりました。キャッシュ・フローの区分別の概要は次のとおりです。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

たな卸資産の減少や減価償却費及び税金等調整前四半期純利益の計上により、資金が5億2百万円増加しました。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

固定資産の取得を主因に、資金が1千3百万円減少しました。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

借入金並びにリース債務の返済による支出により、資金が3億8千万円減少しました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年3月期の業績予想につきましては、平成21年5月14日に公表した業績予想を修正いたしました。業績予想の修正内容につきましては、本日(平成22年2月8日)別途公表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、業績予想につきましては本資料の発表日において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ簿価切下げを行う方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,115,633	1,107,716
受取手形及び売掛金	672,440	673,306
商品及び製品	990,528	1,091,344
仕掛品	295,601	288,902
原材料及び貯蔵品	328,205	375,960
その他	73,548	100,746
貸倒引当金	△1,760	△1,834
流動資産合計	3,474,196	3,636,142
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,124,826	1,181,580
土地	741,388	741,388
その他(純額)	1,075,929	1,181,981
有形固定資産合計	2,942,144	3,104,950
無形固定資産	86,117	105,407
投資その他の資産	379,312	271,512
固定資産合計	3,407,574	3,481,871
繰延資産	4,502	7,139
資産合計	6,886,273	7,125,153
負債の部		
流動負債		
買掛金	201,275	160,832
短期借入金	2,349,030	3,168,994
1年内償還予定の社債	300,000	—
未払法人税等	13,981	26,274
その他	302,504	244,317
流動負債合計	3,166,791	3,600,418
固定負債		
社債	500,000	800,000
長期借入金	922,043	375,140
退職給付引当金	54,166	60,858
役員退職慰労引当金	3,120	29,185
その他	517,485	577,215
固定負債合計	1,996,815	1,842,398
負債合計	5,163,606	5,442,817

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	960,000	960,000
資本剰余金	491,045	491,045
利益剰余金	364,945	330,502
自己株式	△147,949	△147,559
株主資本合計	1,668,041	1,633,989
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7,222	7,434
評価・換算差額等合計	7,222	7,434
少数株主持分	47,402	40,912
純資産合計	1,722,666	1,682,335
負債純資産合計	6,886,273	7,125,153

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	4,272,896	3,288,755
売上原価	2,953,470	2,156,323
売上総利益	1,319,425	1,132,431
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	429,458	339,698
その他	962,220	644,274
販売費及び一般管理費合計	1,391,679	983,972
営業利益又は営業損失(△)	△72,253	148,459
営業外収益		
受取利息	1,191	755
受取配当金	1,863	1,867
仕入割引	12,024	4,010
その他	22,572	17,635
営業外収益合計	37,651	24,269
営業外費用		
支払利息	42,940	56,100
売上割引	42,817	27,565
その他	10,734	7,042
営業外費用合計	96,492	90,707
経常利益又は経常損失(△)	△131,094	82,020
特別利益		
投資有価証券売却益	—	25
固定資産売却益	147,621	8,705
貸倒引当金戻入額	—	6,951
特別利益合計	147,621	15,681
特別損失		
固定資産除却損	80	498
投資有価証券評価損	3,619	—
創業120周年記念関連費用	50,116	—
その他	—	14,046
特別損失合計	53,816	14,544
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△37,289	83,157
法人税等	5,148	41,210
少数株主利益	8,592	7,504
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△51,030	34,443

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△37,289	83,157
減価償却費	126,744	230,488
貸倒引当金の増減額(△は減少)	20,878	△18,924
退職給付引当金の増減額(△は減少)	3,114	△6,691
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△2,080	△26,065
受取利息及び受取配当金	△3,054	△2,622
支払利息	42,940	56,100
有形固定資産売却損益(△は益)	△147,541	△8,705
固定資産除却損	—	498
投資有価証券売却損益(△は益)	3,619	△25
売上債権の増減額(△は増加)	611,374	18,581
たな卸資産の増減額(△は増加)	△186,541	141,873
その他の資産の増減額(△は増加)	79,717	44,114
仕入債務の増減額(△は減少)	△118,804	40,443
その他の負債の増減額(△は減少)	△164,219	34,067
その他	△33,799	24,026
小計	195,060	610,316
利息及び配当金の受取額	2,948	2,764
利息の支払額	△48,165	△60,116
法人税等の支払額	△98,583	△50,504
営業活動によるキャッシュ・フロー	51,260	502,459
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△100,000
定期預金の払戻による収入	—	100,000
有形固定資産の取得による支出	△117,848	△15,293
有形固定資産の売却による収入	386,270	11,225
無形固定資産の取得による支出	△1,326	—
投資有価証券の取得による支出	△2,556	△2,731
投資有価証券の売却による収入	—	75
その他	△14,373	△7,207
投資活動によるキャッシュ・フロー	250,164	△13,932
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	8,334	△893,336
長期借入れによる収入	300,000	800,000
長期借入金の返済による支出	△237,267	△179,725
リース債務の返済による支出	—	△107,159
自己株式の取得による支出	△20,596	△390
自己株式の売却による収入	249	—
配当金の支払額	△95,085	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△44,364	△380,610
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	257,059	107,916
現金及び現金同等物の期首残高	619,798	1,007,716
現金及び現金同等物の四半期末残高	876,857	1,115,633

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

①事業の種類別セグメント

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	金属製品事業 (千円)	レジャー事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	4,063,985	208,911	4,272,896	—	4,272,896
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,063,985	208,911	4,272,896	—	4,272,896
営業利益又は営業損失(△)	△185,146	112,892	△72,253	—	△72,253

(注) 1 事業区分は当社の事業の内容に照らし、金属製品事業とレジャー事業に分類しております。

2 各区分の主な製品

金属製品事業……ハンドツール(レンチ・プライヤ・圧着工具等)、ファスニングツール(リベッター・ナッター等)、工業用ファスナー(リベット・ナット等)、切削工具(ダイヤモンドホイール・ドリル等)などの製造販売

レジャー事業……ゴルフ練習場

3 「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成18年7月5日 企業会計基準第9号)を第1四半期連結会計期間から適用し、評価基準については、原価法から原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

これに伴う当第3四半期連結累計期間の営業損失(△)に与える影響は、軽微であります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	金属製品事業 (千円)	レジャー事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	3,074,076	214,678	3,288,755	—	3,288,755
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,074,076	214,678	3,288,755	—	3,288,755
営業利益	31,027	117,432	148,459	—	148,459

(注) 1 事業区分は当社の事業の内容に照らし、金属製品事業とレジャー事業に分類しております。

2 各区分の主な製品

金属製品事業……ハンドツール(レンチ・プライヤ・圧着工具等)、ファスニングツール(リベッター・ナッター等)、工業用ファスナー(リベット・ナット等)、切削工具(ダイヤモンドホイール・ドリル等)などの製造販売

レジャー事業……ゴルフ練習場

②所在地別セグメント情報

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

本邦以外の国または地域に所在する支店及び連結子会社はありません。

③海外売上高

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	東アジア	北中米	欧州	その他の地域	計
I 海外売上高(千円)	419,751	75,923	36,473	61,268	593,417
II 連結売上高(千円)	—	—	—	—	4,272,896
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	9.8	1.8	0.9	1.4	13.9

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理の近接度によっています。
 2 各区分に属する主な国又は地域
 (1) 東アジア……韓国、台湾
 (2) 北中米……アメリカ
 (3) 欧州……ドイツ
 (4) その他……オーストラリア
 3 海外売上高は、当社の本邦以外の国又は地域における売上高です。

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	東アジア	北中米	欧州	その他の地域	計
I 海外売上高(千円)	349,243	44,570	11,485	39,497	444,797
II 連結売上高(千円)	—	—	—	—	3,288,755
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	10.6	1.4	0.3	1.2	13.5

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理の近接度によっています。
 2 各区分に属する主な国又は地域
 (1) 東アジア……韓国、台湾
 (2) 北中米……アメリカ
 (3) 欧州……ドイツ
 (4) その他……オーストラリア
 3 海外売上高は、当社の本邦以外の国又は地域における売上高です。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。